

公共事業と財政

第 29 回東海自治体学校 (5.25)

分科会 / 報告要旨

なぜ「公共事業と財政」なのか

小泉政権がスタートして 3 年目を迎えた。2001 年 6 月の「今後の経済財政運営及び経済社会の構造改革に関する基本方針」、いわゆる骨太の方針では公共事業・社会保障・地方財政に焦点をあて、抜本的な見直しをせまっている。近年、経済の力強さが失われてきた原因として、これら 3 分野の非効率な部分の拡大をあげる。異常なほどの熱気のもとで「改革」がすすめられてきたが、思うように「成果」があがっていない。改革に対する熱気もしだいに冷め、「構造改革」への批判も高まってくる。

この分科会では、小泉「構造改革」の柱である公共事業と地方財政について、その改革動向を点検するなかで、足もとの地域と自治体、住民生活の側面から問題点を明らかにしていきたい。

公共事業「改革」をめぐって

公共事業については、骨太の方針の第 2 章「新世紀型の社会資本整備 効果と効率の追求」で問題点と改革方向が提示されている。大きくクローズアップされたのが、公共事業関連の特殊法人見直し、なかでも道路公団の民営化である。民営化論議は空中分解したといえ、小泉「構造改革」の行方を暗示しているようだ。それと拠点空港整備のあり方も論議され、成田空港の民営化が決まった。

特殊法人見直しほど注目されないが、公共事業の長期計画についても「改革」がすすめられた。公共投資基本計画が廃止され、公共事業の長期計画を一本化する社会資本整備重点化法が制定された。重点計画は閣議決定だけで決められること、長期計画を一本化しても肥大化した公共事業削減につながらない、といった問題点が指摘されている。公共事業費は補正予算を含めると、削減どころか増額されており、今年度は「国債発行 30 兆円枠」という公約も破棄された。

公共事業「改革」の掛け声の一方で、バブルの時代に計画された道路や空港などの大規模プロジェクトが借金依存で推進されている。また、小泉内閣の目玉として「都市再生」「構造改革特区」関連の事業が大都市圏を中心に具体化されつつある。あのバブルの再現のような事態であり、東京一極集中が懸念されている。徹底した規制緩和 = 規制撤廃により、民間主導の都市再開発が実施されており、公共事業の公共性、都市計画の分権があらためて問われている。

地方財政危機と地方財政「改革」

地方財政危機が叫ばれて久しいが、事態はますます深刻さを増している。借金で首が回らない自治体も多く、それが「平成の大合併」に拍車をかけている。今回の財政危機は、バブル後遺症とともに、借金依存の公共事業拡大によるところが大きい。これは今でも全国一の借金をつづける愛知県をみれば明らかだ。

国と地方あわせて 700 兆円にのぼる借金財政を立て直すために、「構造改革」という名のもとに財政再建＝行財政の効率化がすすめられている。国策的な市町村合併や地方制度再編は、こうした路線に位置するものといえよう。地方財政「改革」の最大の焦点になっているのが、地方財政調整制度としての地方交付税である。政府は三位一体の「改革」をかけるが、地方に税源移譲せずに地方交付税や補助金の削減を実施しつつある。「都市再生」政策のもとで地域間格差がいちだんと拡大するなかで、地方交付税＝地方財政調整制度の役割はむしろ高まっている。地方交付税の縮減は、小規模町村の切捨てにつながり、かけがえのない農山村の維持を困難にする。

注目すべき動き

小泉「構造改革」のもとで実施されている公共事業と地方財政「改革」は、中途半端なだけでなく、地域と自治体のあり方を根底から揺るがし、住民生活にも少なからぬ影響をもたらす。「改革」の実態をシビアに検証して、足もとから問題を提起していかねばならない。

でも悲観するばかりではない。長野県は昨年 12 月に「財政再建推進プログラム」を策定し、公共事業の国庫補助分を 4 年で 4 割、県単独分を 5 年で 5 割減らすという、脱公共事業による大胆な財政再建方針を打ち出した。今年度は単独事業を 21.7%減らし、財政再建に向けた「長野モデル」が発進した。財政再建とともに、「産業活性化・雇用創出プラン」や市町村「自律」に向けた取り組みも注目すべき動きである。

公共事業と財政をめぐるのは、このほかにも地域や環境再生の動き、コスト削減に向けた取り組み、住民（NPO）主導の手作り公共事業、スローな公共事業など新たな動きがみられる。公共事業と財政の分野でも、まさに発想の転換がもとめられている。

〔参考文献〕

*五十嵐敬喜・小川明雄『「都市再生」を問う』岩波新書、2003 年

*山田公平ほか編『市町村合併と自治体自立への展望』自治体研究社、2003 年

*拙著『公共事業と財政』高菅出版、2003 年 ほか